

26 年度を迎えて

毎年のことですが、今年も 3 月には多くの職員が退職、異動などで病院から去ることになりましたが、4 月には新しいメンバーが加わり新年度がスタートしました。人が去っていくことは寂しいことですが、逆に新しい人が入ってくことで職場に活気がでてくることも期待されます。3 月 31 日付けで開院以来副院長・附属看護学校副校長の重責を担ってくれていました小倉英郎先生が退職されました。小倉先生は国立療養所東高知病院、国立高知病院、更に国立病院機構に移行してから現在まで小児科医として診療・研究に従事する一方、病院幹部として直面した多くの問題の解決に努められ病院の中心的な存在として活躍してくれました。本当にご苦労様でした。26 年度、統括診療部は副院長篠原一仁先生（整形外科）、統括診療部長井上修志先生（消化器内科）、救急部長鳥海信一先生（麻酔科）、副救急部長福山充俊先生、診療部長中城登仁先生、副診療部長岩原義人先生（内科）、福家義雄先生（産婦人科）、渡邊裕修先生（泌尿器科）、地域連携室長日野弘之（呼吸器外科）、臨床研究部は臨床研究部長篠原勉先生、医局長武市知己先生の新体制となりました。この体制で新しいステージに上っていきたいと思っております。また、一方、今年も多くの新しいメンバーを高知病院に迎えました。病院に早く溶け込み新しい風を高知病院に吹き込んでいただきたいと思います。高知病院は大きな目標である「地域に信頼される病院」になることを目指しています。そのためには良質で安全な医療の提供、新技術の導入、医療機器の充実が必要ですが、これを実現するためには経営基盤を確立することは必要不可欠です。4 月に診療報酬の改正がありましたが、医療費抑制の点から病院の機能分化が進められていくようですし、今後、さらに少子高齢化の中、医療制度は大きく変化してくることが想定されています。しかし、現在我が国の医療制度が変化せざるをえない状況であることも事実です。このような医療環境の変化の中、病院機能を維持し発展させていくためには高知病院がどのような病院を目指していくべきか、方向性を決定せねばならない重要な時期にきているように思います。しかし、医療体制にどのような変化があったとしても高知病院が県西部の基幹病院としての重要な役割を担っていることには変わりありません。医療の複雑化に伴いチーム医療の重要性が増してきています。職員の心を一つにし、お互いの弱点を補いながら高知病院という大きな力あるチームを作っていきましょう。また、今年度は病院機能評価を受ける時期にもなっております。私達のチーム力を発揮するには最高の舞台です。今年度は高知病院のチーム力を高め、地域に信頼される病院になるという目標にクリアできるよう皆さんと一緒に頑張りたいと思っておりますので宜しくお願い致します。